

小郡市地域おこし協力隊  
による活動報告コラム。

小郡農業活性化

小郡で育てて

小郡で食べる

日々の活動を  
配信中!

Facebook 小郡市地域おこし協力隊

Instagram moromoro82

Twitter nougyou\_ogori82

市産の農作物を、  
多くの消費者へ



諸岡佳紀(もろおかよしき)

1984年、佐賀県生まれ。京都の大学を卒業後、金融業界、新聞社で10年間勤務。小郡市に住む友人の影響で、まちの魅力を身近に感じ、地域おこし協力隊に興味を抱く。35歳の節目に一念発起で応募。



チューバでマンゴーに音色を聴かせる緒方さん。

モーツァルト響かせ育てる、愛されしマンゴー

希みが丘でマンゴーを育てる緒方淳一さん。10aのハウスには、ポピュラーなアーウィン種や、日本では希少種の玉文、ゴールドキングなどが実ります。就農から2年、試行錯誤を経て今夏に初出荷を迎えます。

2017年に夫婦で小郡に越してきた緒方さんは、東京生まれで異色の経歴の持ち主。父親がバリトン歌手、母親がピアノ講師という音楽一家で育ち、音楽大学を卒業後、楽団や音楽教員として活動してきました。お中元でもらったマンゴーの味に魅せられ、上峰町で栽培を学び、2018年に就農。チューバ奏者の傍ら緒方農園を営んでいます。

農園の売りは音楽農法。近隣に配慮しつつ、モーツァルトの楽曲をハウス内に響かせ、時には自らチューバを演奏しマンゴーに音色を聴かせます。「名曲を聴いて育った子どもの心が豊かになるように、マンゴーの生育上にもプラスになるはず」と緒方さん。『半農半音』の人生について「音楽家の日常は地味です。コンサートの日まで練習に次ぐ練習。農業も地道な積み重ねの先に消費者の笑顔がある」と共通点に触れ、「アマテウス(モーツァルトの名前)の和訳は『神に愛されし』。小郡から全国で愛されるマンゴーをめざします」と意気込みを語りました。

★マンゴーは、宝満の市への出荷も予定しています。



## Ogostagram

地域おこし協力隊の日々の活動記録。



「花立山芋つこ隊」が城山公園近くで芋を育てています。11月開催予定の「花立山秋の収穫祭」で収穫を体験してもらおうと準備を進めています。



市内の女性農家で結成した「小郡☆農ガールズ」がプロデュースした「恋する甘酒」。濃厚な味わいが好評です。宝満の市でも購入できます。



市内唯一の酒蔵「森山酒造」が山限産の白瓜を使った奈良漬を生産しています。収穫→塩漬→粕漬を経て7月から販売されています。



市内在住の写真家、吉福輝成さんと大村隆史さんが、コロナ禍で苦境の飲食店の料理を無料で撮影。メニュー表などに役立ててもらっています。



寺福童のイチゴ農家が育てたあまおうを平岡学園がジャムに加工。パンやヨーグルト、お菓子に最適です。直営のカフェで販売しています。



パクチーなど独特の香りや食感を活かしたアジア野菜を全国に届けるべく、赤川の川辺農園がネット通販を開始。自宅で珍しい料理にチャレンジしましょう!